地方創生　第21回

第2期安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略

安平町役場政策推進課 政策推進グループ

1　はじめに　安平町の概要

安平町は札幌市から50kmほどの道央圏に位置し、北海道の空の玄関「新千歳空港」と北海道の海の玄関「苫小牧港」に隣接し、ＪＲ石勝線や道東自動車道が通るなど、交通・物流の要衝として陸海空に恵まれた場所にあります。町内には日本競馬会トップクラスの競走馬を育てている牧場が数多くあり、多くの馬が放牧されている北海道らしい牧歌的な風景を目にすることができる地域となっています。

平成18（2006）年に旧追分町と旧早来町が合併して誕生した安平町は、追分地区が夕張線と室蘭線の分岐点として追分停車場線を開業し、鉄道の拠点として栄え、早来地区は鉄道の開通により開墾が進み、農業関係者の移住により農林業･馬産業が発展してきました。

また、近年では、平成30（2018）年９月に発生した北海道胆振東部地震により甚大な被害を受け、大規模な土砂災害や家屋の倒壊、さらには、ライフラインの寸断や産業被害の拡大など、暮らしや経済活動に広範かつ多大な影響を受けましたが、未来へつながる復興を目指し各種取組みを展開しているところです。

人口は、昭和35（1960）年をピークとして減少し続けているものの、独自に行った移住･定住施策により、平成５年（1993年）から平成14（2002）年までの間、人口減少に歯止めをかけた時期がありますが、その後は増加に転じることなく人口減少が続いており、特に平成18（2006）年の合併以降は、自然減と社会減が重なり人口減少から抜け出せずにいます。さらに前述した北海道胆振東部地震の影響もあり、平成30（2018）年から３年間は急激に社会減による人口流出が進んでいます。

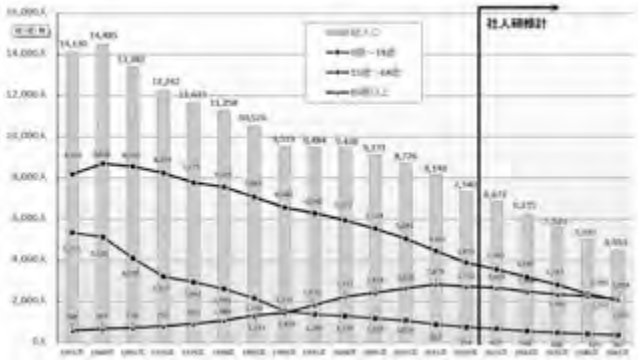
2　安平町の人口推計と将来展望人口

平成27（2015）年の国勢調査ベースで8,148人いる人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠した今後の人口推計によると、安平町の総人口は、令和27（2045）年には、44.8％減少した4,493人になることが予測されています。なお、高齢化率は46.6％と２人に１人が高齢者であるとされています。

このような状態が続けば、公共サービスの質・量の低下、バランスの悪い人口構造による将来的な地域コ

ミュニティの停滞、医療費・社会保障分野における生産年齢世代の負担増など、様々な問題が懸念されます。

宅地や工業団地を増やせない土地利用上の法律的な問題や北海道経済の状況、昨今の自然災害やコロナ禍による経済の停滞、増加する死亡者数などから、当面は積極的な施策を展開しても、自然減少を越えるだけの社会増加の実現は、きわめて困難であると言えますが、後述する安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略における施策・取組みにより、戦略的に自然減少・社会減少対策を講じることで、人口推計で示される将来人口の減少率を最小限に抑えていくこととしています。



安平町の総人口の推移と将来推計

3　安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要

当町においては、国が策定した総合戦略の基本的な考え方を基に、平成28（2016）年１月に第１期目となる「安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、地方創生に向けた各種施策を展開してきました。

その後、国や北海道においては、現行の枠組みを維持しつつ、「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」で示された新たな視点を加味した施策の拡充のもと、第２期総合戦略を策定しました。

ただし、当町においては、平成30（2018）年北海道胆振東部地震の影響により第２期への移行作業が困難となったため、安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間を令和２（2020）年度まで１年延長し、これまでの地方創生に向けた取組みの成果や課題を踏まえた上で、安平町の地方創生の充実と強化に向け、切れ目のない取組みを進めるため、第２期安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定しました。

第１期目となる総合戦略の計画期間では、人口減少対策という観点から、個別の数値目標に目を向けると合計特殊出生率や転出者の抑制といった指標項目では目標達成に至っていない状況にあり、計画終了時となる令和２（2020）年に7,934人と設定した目標人口に関しては、2020年３月末現在で7,694人（住民基本台帳）まで減少し、高齢化率に関しては、33.6％（2015年３月末）から36.6％（2020年３月末）へ上昇するなど、人口減少・高齢化率ともに厳しい結果となりました。

当町にとっては、厳しい状況ではありますが、震災以降は、復興に向けた動きとして、道の駅あびらＤ51（デゴイチ）ステーションの開業による来訪客・交流人口の増加、震災に伴う一体型の小中学校建設（義務教育学校 早来学園の開校）による魅力ある子育て・教育環境の取組み展開、地域づくりに関わる若者たちの連携など、安平町の将来に向けたまちづくりにとってプラス要因となる特色ある取組みが着実に増えていることから、国が掲げる地方創生の取組み展開、そして人口減少対策を着実に実行していく必要があります。

4　第２期安平町まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標

基本目標１　子どもを産み育てる環境のために

自然豊かな当町で、安心して子どもを産み育てることができるよう、子育て・教育環境の整備と子育てサービスの充実を図るとともに、移住・定住施策により必要な子どもの数を確保しながら、ふるさと教育・学社融合事業をはじめ、新たに取組みを進めているあびら教育プランなど、当町が誇る特色ある教育活動を深化させていきます。

基本目標２　将来の不安を取り除き、いつまでも安全・安心に住み続けられるまちづくりのために

医療・福祉・商業などの生活サービス起業の充実に

よるすべての世代の転出抑制を図るとともに健康寿命の延伸に向けた取組みなどを通じて高齢者が意欲を持ち、その能力を最大限に発揮できる持続可能な地域社会を図ります。

基本目標３　強みを活かした産業と雇用の場づくりのために

企業誘致の促進や立地企業の増設等への支援、新規就農・商工業後継者対策、創業・起業支援に力を入れるとともに、地域資源や地域特性を活かした新たな雇用創出に向けて、基幹産業である農林業と商工業の連携による６次産業化を推進します。

基本目標４　移住・定住を見据えた交流人口の確保のために

知名度を向上し、交流人口と移住・定住人口へ結びつけるシティプロモーションの考えに基づき、地域のイメージを高める情報発信の強化、「道の駅」を拠点として町内外の人々が観光資源を回遊・交流するための仕組みづくりなど、賑わい創出と交流人口の拡大に向けた取組みにより、最終的に移住・定住先として子育て世代に選ばれるまちづくりを推進します。

５　安平町における主な取組事例

【道の駅あびらD51ステーションの開業】

平成31（2019）年４月に開業した道の駅あびらD51（デゴイチ）ステーションは、町内の農産品、特産品、歴史・文化、風景など地域固有の強みを結集させ、町内外の人々の交流・つながりを生むための道の駅として整備されました。整備にあたっては、平成28（2016）年度から地方創生推進交付金を活用し、ソフト面における賑わいの創出に向けた準備・取組みを進めてきました。また、道の駅に展示する「蒸気機関車D51 320号機」は、日本遺産「炭鉄港」の構成文化財として指定され、鉄道ファンだけではなく、子どもから大人まで楽しめる展示を行っています。こうした展示や隣接地への公園整備をはじめ、各種イベントの開催、地域住民･団体の協力を通じて多くの来場者が訪れており、令和３（2021）年５月には来場者200万人を達成するなど賑わいを見せています。

この賑わいを一過性のものとしないための仕掛けが、引き続き必要であると認識しており、例として、地元住民と交流・関係人口の間の交流を深め、より魅力的な取組みにつなげるとともに、機関車・車両の保全・管理技術の共有を進めることや冬期間の誘客などの取組みが重要です。今後も、道の駅を拠点として、地元住民をはじめ、事業者や交流人口・関係人口との協力を深めながら、道内外をはじめ、インバウンドの呼び込みも視野に、地方創生の取組みを推進していきます。

【小中一貫義務教育学校　早来学園開校に向けた取組み】

平成30年北海道胆振東部地震の影響により、早来中学校校舎は大きな被害を受け、生徒たちは仮設校舎での学校生活を余儀なくされていました。また、早来小学校の老朽化も課題であったことから、小中一貫による義務教育学校の建設を進め、令和５（2023）年１月に校舎の完成を迎えました。本格的な早来学園として

の開校は４月を予定していますが、学校建設にあたっては「みんなの学校をつくる会」などの住民主体の話し合いや意見交換を重ねるとともに、学校の名称をはじめ、校章や制服・ジャージのデザインのアンケートを行うなど、子どもたちの声を多く取り入れながら、より良い学校づくりを目指してきました。

こうした安平町における子育て・教育環境の充実・魅力化により、子育て世代からの移住や住まいに関する問い合わせが増加傾向にあることから、民間賃貸共同住宅の建設支援や空き地・空き家の情報提供を積極的に行っていくなど、移住定住の取組みも連動させながら地方創生を加速化させていきます。

【安平町独自の教育手法「あびら教育プラン」の展開】

震災により子どもたちの学びの場や町全体の活気が失われたことをきっかけとして、震災前よりも魅力的な町にすべく、令和元（2019）年度から地方創生推進交付金を活用し、住民の遊びや学び、挑戦を生む取組みを応援する「日本で一番世界に近いまちプロジェクト」を開始しました。この取組みは、幼いころから遊びの中でエネルギーを培（つちか）う「遊育」、自ら考え夢を見つける「学び」、夢を実現する手助けとなる「挑戦（クラウドファンディング）」の３つの取組みを通じて、一人ひとりが夢の実現、新たな世界を築く事業として展開してきました。現在は安平町独自の教育手法「あびら教育プラン」として、子どもから大人まで、自分の人生を豊かに生きるために挑戦する人を応援し、挑戦が次々生まれる文化を作ることで、より良い町をつくることとしています。

前述する早来学園をはじめ、町内の小中学校においても「あびら教育プラン」の取組みを着実に進めていますが、今後、教育課程に位置付けながら実施していくことで、探求的な学習に対する教員の負担軽減を図りながら、児童生徒の学習活動がさらに充実するよう支援していきます。また、実施にあたっては、地域コミュニティや学校をも巻き込みながら、世代やフェーズに合った教育環境を構築し、日本一の公教育及び地方創生を目指します。